

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立大谷小学校）

学校番号 072

【様式】

目指す学校像	「通ってよかった、大谷小！」と児童が思える学校		
重点目標	1 児童の基礎学力の定着と教員の指導力を向上させる学校 2 きれいで安全で、児童にとって楽しい学校 3 コミュニティ・スクールの推進と保護者や地域に開かれた学校 4 教職員のミドルリーダーを育成し、服務規律を遵守する学校		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標								実施日令和7年2月12日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに市・全国の平均を下回っている。 ○学習に対して意欲的に取り組む児童も多いが、学習の積み重ねがなく、意欲の低い児童もいる。 ○基礎学力向上の取組を行っているが、担任によって違う。 ○教員は、経験の少ない者が多い。 〈課題〉 ○国語と算数を中心に基礎学力を向上させる取組みを学校全体で行う。 ○学習に向かう意欲や姿勢が十分ではない児童がいるので、学習の習慣化や学習に向かう意欲を高める。	・児童の基礎学力の定着	①授業の最初や終わり・家庭学習で、ドリルパークやスタディサブリを取り組ませ、学びの自立と個別最適な学びを推進する。 ②高学年は教科担任制を行い、教員の専門的な指導により、「わかる」「楽しい」授業を行う。 ③学びのポイント「じ・し・や・く」を取り入れた授業を行う。	①端末活用状況について、3～6年の週3回以上使用の平均を85％にする。（R5 80％） ②家庭学習を週2回以上取り組ませる。 ③高学年の学びの指標で目標値を超える結果にする。 ④児童の学校評価「学習の定着」の「よくあてはまる」の回答を70％にする。（R5 64％）	①全学年で、毎日、おはようメーターや授業で端末（タブレット）を使用している。 ②授業中や家庭学習でドリルパークやスタディサブリに取り組む児童も増えた。 ③高学年の学びの指標「基礎的な授業スキル」で、高学年担当教員の平均が5.51ポイントになり目標値を上回った。（目標値 市平均が3.46ポイント） ④児童の学校評価「学習の定着」は、目標70％に届かなかったが、昨年度を上回る68％だった。	B	・来年度も授業中や家庭でタブレットを使って、調べ学習や意見交換、自主学習等として取り組ませ活用する。 ・ドリルパークの正答率等の教育データから、個別支援につなげ、個々の学力の向上を図る。 ・児童や保護者へ家庭学習の重要性を説き、学校と家庭が協力して取り組めるようにする。	・家庭学習の重要性について、学校から保護者へ説明し協力を得られるようにする。 ・家庭学習の内容やタブレットを使用しての学習のやり方などを保護者へ説明し、親子で取り組めるようにする。
		・教員の指導力の向上	①基礎学力向上に関する研究授業を通して、児童の学力を向上させる方策を明確にした研究を行う。 ②タブレットパソコンを授業で活用するためのエバンジェリストによるタブレットの研修を推進する。	①市教委より指導者を招いての授業研究会を年3回実施する。 ②エバンジェリストによる毎月1回程度、対面またはTeamsによる研修や情報交換を行う。	①7月・9月・2月に市教委から指導者を招聘し、授業研究会を開催し、ディベート・自由進度学習・ICTの活用と学習環境の整備を中心に指導いただき児童の学力向上と教師の指導力向上につながった。 ②毎月、エバンジェリストのよる授業で活用できるアプリの紹介や教具について研修が行われた。	B	・学校課題研究で、学びのポイント「じ・し・や・く」の授業研究を中心に教員研修を進め、指導力向上を図る。 ・教員の授業中のタブレット利用については、常に先進校の実践例を研修し、授業に活用する。	
2	〈現状〉 ○保護者の学校評価で「安全きれいな学校」の「よくあてはなる」の回答が26％と低い。 ○毎年、不良個所を修繕し、児童への清掃指導を行っているが、廊下や階段のゴミが目立つ。 ○6月末現在、いじめ案件が数件、長欠児童も数人いる。 〈課題〉 ○学校が綺麗で生活しやすい環境を整えるため、児童への清掃指導の充実と保護者との協働による環境整備を行い、児童、教員、保護者が一緒になって、学校美化に取り組んでいく。 ○学年や学級において、楽しいイベントの開催や児童の自己肯定感を高める工夫が必要である。	・きれいで安全な学校	①教職員と保護者と連携した環境整備を行う、 ②教職員も一緒に行いながら、児童へ清掃指導を行う。 ③毎月の安全点検による不良個所の確認・修繕・見届けを実施する。	①教職員と保護者との連携した環境整備を年2回実施する。 ②保護者の学校評価の設問「安全きれいな環境」について「よくあてはまる」の回答を30％にする。（R5 26％）	①5月と10月に教職員とおやじの会による環境整備を予定した。5月は実施できたが、10月は小雨のため、有志による活動となったが、連携して美しい環境づくりができた。 ②保護者の学校評価の設問「安全きれいな環境」について「よくあてはまる」の回答は、18％と目標を大きく下回った。トイレの床や雨漏りなどによる影響が大きい。	B	・引き続き、保護者やおやじの会と教職員が連携して、環境整備を続け、学校教育目標である「きれいな学校」を目指す。 ・雨漏りの修繕やトイレの床については、教育委員会に修繕依頼をしたり、清掃の仕方を見直したりして改善する。	・50年経過し老朽化している。引き続き、教育委員会と連携し修繕をしてほしい。 ・清掃指導は、ほうきの使い方や掃除用具の整理整頓について教員から児童へ ・親子清掃を年末の大掃除で行った方が、保護者の理解や協力が得られる。
		・児童が楽しい学校	①全校朝会で校長から児童が自信をもてるように褒める場面を作る。 ②児童が楽しめるイベントを開催する。 ③おはようメーターの結果により、児童の心の様子を確認し対応する。 ④児童が困っている事について、心と生活のアンケート等により早期に発見し、担任、管理職、学年主任、SC、SSW、さわやか相談員などで組織的に対応し、保護者とともに早期に解決する。	①全校朝会で校長より児童のよいところを毎回紹介する。 ②児童・保護者の学校評価の設問「大谷小でよかった」の肯定的な回答を両方ともに90％以上にする。（R5 児童：92％、保護者：81％）	①3回（上手なあいさつ・がんばる友達を応援・公園の掃除）子どもたちの良い行いを全校に紹介した。 ②児童・保護者の学校評価の設問「大谷小でよかった」の肯定的な回答は、児童が94％と昨年度を上回ったが、保護者は75％と昨年度を下回った。	B	・学校内外で児童の良い行いについて情報を集め、全校の前で褒めることで自己肯定感を高めていく。 ・学校行事や学年活動で、児童が楽しめるイベントを開催し、楽しい学校づくりに取り組む。	
3	〈現状〉 ○コミュニティ・スクール3年目で、学校運営協議会による支援や協力体制が整った。 ○保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の回答が前年度27％と評価が低かった。 〈課題〉 ○学校運営協議会でどのような話し合いが行われているのかを周知したい。 ○保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の評価を高めたい。	・コミュニティ・スクールの推進	①学校運営協議会で協議された内容をスクールサポートネットワーク協議会で共有し、地域が学校の支援を行う。 ②文書でコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の協議内容を保護者や地域に発信する。	①学校運営協議会の協議内容をスクールサポートネットワーク協議会で年2回報告する。 ②学校運営協議会の協議内容を保護者や地域に、年3回情報発信する。	①午前中に行われた学校運営協議会の協議内容を、午後行われるスクールサポートネットワーク協議会で年2回報告した。 ②年3回開催された学校運営協議会の内容を「学校運営協議会だより」として保護者や地域へ発信した。	B	・今年度は、学校運営協議会の熟議に児童を参画させ、話し合いが深まった。来年度も児童を参画させ、児童会の取組や地域へのお願いなど地域の施設との連携を図りながら、スクール・コミュニティを目指す。	・児童がコミュニティ・スクールの熟議に参画し、取組の発表がとても素晴らしい。来年度、更なる進化を期待する。 ・保護者に紹介し、学校の様子（児童の活動の様子や献立）を見てもらえるように周知する。
		・保護者や地域に開かれた学校	①学校だよりやホームページで児童の活動の様子を発信する。 ②学校からの文書をいつでも見られるように、保護者が学校のホームページから見られるように配信する。	①学校のホームページの「学校の様子」を毎日更新する。 ②保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の回答を30％にする。（R5 27％）	①学校のホームページに児童の活動の様子を「学校の様子」として毎日配信した。 ②保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の回答は、昨年を上回ったが目標値に届かず29％だった。	B	・引き続き、学校のホームページに児童の活動の様子を写真と言葉で配信し、校長が懇談会の挨拶や学校だよりを通して、学校の様子を伝えることで、保護者や地域に開かれた学校を目指す。	
4	〈現状〉 ○平均年齢が約37歳、平均経験年数が約11年と比較的若い教員の学校である。 ○在校年数5年以上が13％、産育休が9人いる。 ○教職経験の浅い教員が多く、生徒指導や保護者対応など十分ではない。 ○4月の時間外在校時間80時間以上が7人いる。 〈課題〉 ○学年主任の後任をできれば校内から出せるように教員の資質向上をさせたい。 ○児童数が多く、若い教員も多いので、危機管理意識を高める必要がある。	・教職員のミドルリーダーを育成し、服務規律を守る学校	①事故・不祥事防止のためのチェックシートにより、一人ひとりが服務規律の確認を行う。 ②管理職による教室訪問・授業観察を行い、人事評価の面談等で指導・評価する。 ③時間を意識して業務を遂行できるように、終了時刻を明示した会議・仕事等を行う。 ④毎週水曜日のノー残業デーのほか、月1回定時退勤日を設定する。 ⑤面談を通して、管理職や学年主任へのキャリアアップを薦める。	①事故・不祥事防止のためのチェックシートによる確認を毎月行う。 ②教職員の学校評価の設問「大谷小で働いてよかった」の教職員の「よくあてはまる」の回答を40％にする。（R5 33％） ③12月の時間外在校時間80時間以上を5人以内に作る。 ④管理職や学年主任の候補を2名以上育成する。	①毎月事故・不祥事防止のためのチェックシートを配付して、できていない教職員を確認し、継続した場合は指導した。 ②教職員の学校評価の設問「大谷小で働いてよかった」の教職員の「よくあてはまる」の回答が42％になり目標を上回った。 ③4月に時間外在校時間80時間以上が7人いたが、毎月1～3人程度に減り、12月の80時間以上が0人になった。 ④推薦研修参加やキャリアステージを考慮し、管理職候補1名、学年主任1名の候補を育成した。	A	・来年度も毎月の不祥事防止のためのチェックシートによる教職員個々の振り返りをさせ、具体的な教職員事故事例を挙げた指導により、服務規律確保をする。 ・業務改善については、連続した休みの設定や行事内容・日課表の見直し、低学年の授業時数の削減等により、教職員の健康に配慮した学校運営を行う。 ・教職員のキャリアステージに合った研修を紹介し、キャリアアップを勧める。	・教職員の健康への配慮として、振替休業日と祝日等を連続させて、3日以上連続する休みを設定したほうが良い。